

「信州ハム SDGs 基金 2024 秋助成」 助成金実績報告書

2026年1月7日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	長野県長野市徳間 1168-27
団体名	NPO 法人信州ふるさと郷育ネットワーク
代表者職氏名	理事長 佐藤栄美

「信州ハム SDGs 基金 2024 秋助成」助成金について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請事業名

休耕地を活用して無農薬栽培を通じた農業体験での食育教育

2. 活動の概要

①具体的な対象者のイメージや人数

※助成申請書の内容を転記してください。

各農業体験参加者は20人前後。親子連れが多く

土に触れさせたいとの親の願いが下記感想からも伺えます。

▶普段できない体験を子どもと一緒にすることができて良かった

です。じゃがいもを植えるにも、いくつもの工程があったり、農具も実際に持ってみるととても重く、いろいろなことを知ることができました。収穫が楽しみです。(4月14日 30代女性)

▶4月に植えたじゃがいもを、大きくなったかな?と娘と楽しみにしていました。初めてのジャガイモ掘り、大きなジャガイモを見つけるたびに「すごい!」と大喜びでした。楽しい体験ができて嬉しいです。(7月14日 40代女性)

2年前から小中同じ敷地に併設された豊田小中学校の小2と中2の子どもたちが合同で大豆の種まき、11月の収穫を行っています。小学生は9月にも枝豆収穫を行い、その場で茹でた枝豆を塩なし、そのままの味を体験しました。大豆をもぎながら、「楽しい



～」と思わず笑みを浮かべる小学生、「これが本当の枝豆の味なんだあ」とおかわりする小学生。小2に「ここはこうするんだよ」と声掛けする中2生。農業体験は色々な体験も引き出しています。



②この活動で目指すこと

※助成申請書の内容を転記してください。

稲作文化が日本に到来しておよそ3千年。その農耕民族としてのDNAが日本人の体の中に存在する。そして現在、一時、異常気象や災害で米不足が到来。米農家を中心に農業従事者は30年の間に1/10の120万に減少。このまま推移すると、自給率100%のお米を作る担い手が不足。同時に沸騰化する地球環境下、今後百年に一回の異常気象や災害が毎年のように日本列島を襲う確率が高まっている。人間が生きていく上で「食糧」確保は必須である。一方このような状況下で、自分の目で日の出を見たことのない小学生が半分以上、生まれたときから情報機器の音に慣らされ、春の音も親との会話の声すらなく、『春風や鬮志いだきて丘に立つ（高浜虚子）』と詠われる春のにおいを嗅ぐ場を持つことすら難しい時代を迎えている。山菜を取って食べたことのある小学生は長野県でも半分以下、化学調味料に慣らされた舌では受け入れられなくなっている。桜の花はめでるが桜の木ぬくもりを手で触って感じたりすることはあまりしない。物が豊かになり、「安全・安心・効率」の価値観が先行すればするほど、人間の五感を使う場が失われ、結果として感性を磨く機会も失ってきている。自分の体に備わった五感で感じる機会が少ないということは、自分を生命体として感じられなくなっているということでもある。物が豊かでなかった江戸時代は「自然界に無駄はない」という考え方の下に、「循環（めぐること）」の価値観をもち、エネルギー、水、資源、食糧、人口など多くを克服することに成功した、という。これらの難題に取り組みながら、環境を大切に、廃棄物を出さず、満足のいく食事を楽しみ、経済的に活気のある社会を築き上げていたという。この江戸時代の『循環型社会』に学び日本人に備わっている米作りのDNAと人間本来の五感を覚醒させることで「食」そのものに対する意識を変容させることができる。日本にはかつて「自前で生きる」という言葉があり、多くの人と関わり助け合いながら、それでも「自分なり」であることが「自前」なのである』という文言がある。食も「自前である」ことが「自前で生きていく」ことに繋がり、自他共に自信と誇りが持てる環境土地柄になっていくことになり、活気ある江戸の社会の姿に重なる。米作りのDNAを母体に「食」に関わる人間の五感を通して感性をより深く磨くことにより、ものを「見抜く力・気づく力・高める力・広く深く掘り下げる力・つながる力・連想する力・与える力・大事にする力」等を一層培うことができる。それは自立につながり、今を生きる子どもたちを中心に現代版の「生きる力」そのものになる。

3. 活動内容（日時・場所・活動内容・参加人数など）

- ① 2024年12月1日(日)午前9時45分～12時まで：中野市中央公民館調理室
- ◆「そば打ち体験」・指導者：そば講師（神田正一）
 - ・参加人数 14名
 - ・活動内容 前半ソバ打ち体験、後半その場で茹で、すぐに全員で食した。
- ② 2025年2月16日(日)…豊田農産物加工施設厨房室
- ◆「味噌造り体験」・指導者：加工施設職員
 - 第1回11時集合（11時半～12時半）10名参加
 - 第2回2時半集合（3時～4時）8名参加
 - ・活動内容 厨房室にて、炊きあがった大豆を機械でつぶし、全員で広げて冷まし、麴・塩を混ぜ合わせ、各自味噌だるまを作り、桶にたたきつけるように押し込み、貯蔵倉庫へ全員で運び終了。
- ③ 2025年4月13日(日)9時～10時…浜津ヶ池第1農場
- ◆「ジャガイモ植付け体験」8名参加（キタアカリ2畝）
 - ・活動内容 盛り土した60CM幅の畝に鍬で溝をつくり、30CM間隔で定植。
- ④ 2025年6月1日(日)9時から10時30分…浜津ヶ池第3農場
- ◆「大豆の種まき・さつまいも植付け体験」8名参加
 - ・活動内容 前半、25cm間隔で青大豆（彩みどり）を26畝分播種後、さつまいもの苗（紅はるか）を45CM間隔でマルチ畝2畝分に定植。
- ⑤ 2025年6月4日(木)9時から11時…浜津ヶ池第3農場
- ◆小中学生による「大豆の種まき体（第3農場）
 - 中野市立豊田小学校2年生（16名）・豊田中学校2年生（16名）合同体験
 - ・活動内容 小中生合同で、大豆畑の整地（トンブを使い平らに）後、4畝分にロープを張り、25cm間隔で小中合同4人グループごとに播種。その後、鳥よけ及び乾燥を避けるため、畝ごとに藁を敷き、さらに鳥よけのため、ペットボトルを使った鳥よけ風車を作り、大豆を蒔いた畝に高さ1mの鉄棒の先に風車をつけ、差し込んで完成。
- ⑥ 2025年6月8日(日)9時から10時30分…第4農場 9名参加
- ◆「にんにく収穫体験」（収穫 国産ニンニク/ホワイトロップン）
 - ・活動内容 4畝のニンニク（1畝はホワイトロップン、他の3畝は通常ニンニク）を参加者がここに掘り起こしたり、引き抜き、各自、2種のにんにくを持ち帰った。
- ⑦ 2025年7月13日(日)9時から10時…第1農場
- ◆「じゃがいも収穫体験」8名参加
 - ・活動内容 各自スコップでジャガイモ苗の周辺から掘り起こし、収穫。子ネズミも出没するハプニングもあり。
- ⑧ 2025年8月3日(日)8時から9時…第1農場
- ◆「蕎麦の種まき体験」5名参加（夏の暑さで当日欠席数名）
 - ・活動内容 畝幅60cm間隔にソバ種（品種：大信州）を筋蒔きに行った。腰をかがめての作業と暑さで1畝終了後には汗だくとなった。30畝あったがNPO会員も総出でようやく終了。

⑨ 2025年9月22日(月) 9時から11時30分…第2農場

◆「枝豆収穫体験」第2農場(第3農場の大豆の生育が不良のため、予備用で第2農場に蒔いた大豆で実施。)中野市立豊田小学校2年生16名

- ・活動内容 炎天下で土が堅かったが、掛け声を発しながら抜くグループや一人で抜いて意気揚々とする子など、ワイワイながらの収穫後、水道で洗った後、沸いた茹釜に入れ、塩をまぶしてその場で食した。

⑩ 2025年10月12日(日) 10時から11時半…第3農場

◆「サツマイモ収穫体験」16名参加

- ・活動内容 収穫後にすぐに焼き芋を食べるため、1週間前に一部掘り起こしたサツマイモ(紅はるか)を各自新聞紙とアルミホイルで巻き、焚火の中に投入後、6月に定植したサツマイモをスコップ等で掘り起こし、そのあと、作業前に焚火に入れた焼き上がりのサツマイモを食した。

⑪ 2025年11月2日(日) 10時から11時…第2農場

◆「ニンニク植付け体験」5名参加

- ・活動内容 連作障害を避けるため、6月収穫したニンニク畑ではなく、第2農場での植え付けとなった。3畝(1畝はホワイトロップン、2畝は通常ニンニク種使用)種の半分は6月に収穫したニンニク種使用。マルチ畝に今回は少し深めに押し込みながら定植。

⑫ 2025年11月20日(木) 9時…第3農場

◆豊田小・豊田中合同の大豆収穫体験は夏の高温によるカメムシ大量発生の影響を受け、大豆が全滅。体験中止となった。

※農業体験の運営、補助は当NPO法人会員で行う。

※体験対象者：親子、市内小中学生を中心に

※休耕地活用：第1農場→中野市大字栗林大池平 868-1 (823 m²)

第2農場→中野市大字栗林字山下 703-ハ (218 m²)

第3農場→中野市大字栗林大池平 869-2 (873 m²)

第4農場→中野市大字栗林字山下 704 (210 m²)

(2025年度から新たに第4農場をお借りし、ニンニク栽培を開始)

4. 事業の成果(事業によって対象者がどのように変化したか。また、事業を通じて達成できたことや達成できなかったことなど)

この活動で目指していることのポイントは

- ・ 農耕民族（米作り）のDNAの覚醒/「食」（食料に確保）に対する意識の変容/生命体として五感を通して生きている実感/多くの人との関りと継続、である。これらのポイントに参加者の声から拾ってみる。

◇ソバ打ち体験

- ・ 素晴らしい休耕地利用されていますネ。市内も広がる休耕地、何とかしたいと思い、以前麦を作りましたが高齢にてやめてしまって残念に思っている所です。土作りも堆肥づくりも体験してほしいと思います。(70代～)
- ・ そば打ち体験2回目の参加です。ポイントを押さえた丁寧な指導のお陰で美味しそうなそばが完成しました。ありがとうございました。また、参加したいと思います。(50～60代)
- ・ ありがとうございました。家で食べるのが楽しみです。(50～60代)
- ・ 大変おいしくいただきました。今後も機会があれば参加したいと思います。

〈ポイント〉

- ・ そば打ち体験は毎年人気があり、公民館調理室の6テーブルでは収容しきれない状況。夏に自らそば播きしたそば粉で味わってほしいが、最近の炎暑（8月そば播き）の中、種まき参加を避ける傾向があり、課題でもある。無農薬栽培のソバの味、その場で食べる雰囲気も共に「食」や継続、五感を感じさせてくれる瞬間でもある。

◇「みそ造り体験」

- ・ 食べものもだしてくれておいしかった。いい体験になりました。(50～60代)
- ・ 少人数での体験でしたので、全ての工程に携わることができてよかったです。出来上がりが楽しみです。すいとんのおもてなしも想定外でおいしくいただきました。ありがとうございました。(70代)
- ・ 初めてみそづくりをさせて頂きとてもとても楽しかったです。出来上がりが楽しみです。その後のお茶のみの料理、すいとん、漬物がとてもおいしく、あたたかかったです。(50～60代)
- ・ とても楽しかったです。(50～60代)・作業が早く楽しかったです。(50～60代)
- ・ とても楽しかったです。(50～60代)・とても良かったです。(50～60代)
- ・ 楽しい仕込でした。ありがとうございます。(70代～)
- ・ 楽しかった。3回目の参加。親子で参加。息子も楽しんでいました。(小学生、30～40代)
- ・ 初めての経験でしたが、すべて準備していただいて流れるように作業が進み、申し訳ないです。お店でも買えるときですが、自分で作った作物ですべて手作りするのは何より安心安全です。一度でいいので、自分で味噌を作りたいと思います。ほんとうにありがとうございました。(70代～)
- ・ とてもていねいに教えて頂きよくわかりました。わいわい皆さんとおしゃべりしながら楽しかったです。ありがとうございました。お料理もおいしかったです。(50～60代)

〈ポイント〉

- ・数年前まで、「みそ造り体験」は地域の公民館内広間に味噌つぶし機を持ち込み、庭で大釜3つで大豆の煮炊き（フコパン）を行っていた。しかし持ち運びできるフコパンへの法規制が入り、レンタルできなくなった。公民館で実施した時は広間だったので20人以上が一堂に集まり、つぶし機からのみそを輪の中央に山高く積み、みんなでワイワイしながら、こね回す風景だった。現在、営業を止めた味噌造り工場の場をお借りし実施している。現場は通常作業員が2、3人入るスペースの為、狭く無理に7、8人入れて実施。ただし、一か所に味噌づくりの工程が集約され、1時間以内で樽詰めできる。
- ・「みそ造り体験」も人気があり応募者も多いが、以前は応募者すべてを収容できたが、冒頭の通り参加者限定で実施。しかし、工程が短時間ですべて体験できるため、参加者からは評判がよい。当法人としては以前の公民館体験での味噌造りにしたいが、公共施設の庭は薪炊きを禁止しているため、フコパンに代えることができない。本来、薪炊きで子どもたちが火起こしから始め、大豆の煮炊き具合や煮炊き途中の大豆の香しいにおいや蓋を開けて大豆の硬さなども指で体験してほしいが、出来ない現状が課題。
- ・体験者の声から、みそ造りの工程をすべて体験できたこと自体が農耕民族のDNAの覚醒/「食」（食料に確保）に対する意識の変容（お店でも買えるときですが、自分で作った作物ですべて手作りするのは何より安心安全です。一度でいいので、自分で味噌を作りたいと思います）となり、五感を通して生きている実感や多くの人との関り（わいわい皆さんとおしゃべりしながら楽しかったです）が生まれている。

◇「じゃがいも植付け体験」

- ・普段できない体験を子どもと一緒にすることができて良かったです。じゃがいもを植えるにも、いくつもの工程があったり、農具も実際に持ってみるととても重く、いろいろなことを知ることができました。収穫が楽しみです。（30～40代）
- ・ジャガイモ植付けをていねいに教えて頂き、大変ためになりました。また参加させていただきます。ありがとうございました。（50～60代）

◇「大豆種まき・さつまいも植付け体験」

- ・初めてだったので楽しかったです。いろいろ経験できることを楽しみに参加してみたいと思います。（50代）
- ・今までに作っていたが、自己流なので始めから教えていただき有難うございました。（70代）

◇「じゃがいも収穫体験」

- ・初めての収穫体験、とても楽しくでき、嬉しかったです。
- ・後のお茶会も親切な対応でとても良かったです。（50～60代）

◇「そば播き体験」

- ・ 初めてのお仕事で、うまくいかなかったけどたのしかった。(70代～)
- ・ 初めての体験でおもしろかった。暑い中でしたが楽しくて苦にもなりませんでした。(70代～)
- ・ 大変、勉強になりました。(50～60代)

◇「さつまいも収穫・焼き芋体験」

- ・ 天気も良く美味しくいただきました。尽力を尽くしてくださった方々、ありがとうございます(70代)
- ・ さつまいもの焼き方をくわしく教えてもらっておもしろかったです。土の中からおいもが出てきて虫も一杯いておもしろかったし、やきいもがおいしいです。(小学生)
- ・ さつまいもが土の奥深くに入っていて、みんなで協力して取れた時はすごく嬉しかった。焼き芋がとてもおいしかったです。(30～40代)
- ・ ていねいな説明でたのしくできました。焼き芋やってみたいです。さつまいもとてもおいしかったです。会場も良い所ですね。おもてなしもとてもありがたかったです。ごちそう様です。(50～60代)
- ・ 無農薬と聞いてとても安心しました。とてもとてもおいしかったです。ありがとうございます(30代～)
- ・ 初めてだったので良かったです。(70代～)
- ・ 写真や映像で見るような状態でさつまいもも掘り上がって感激です。自分で作っているものはつき方がバラバラで掘るのが…。(70代～)
- ・ 初めてのさつまいも収穫、とても楽しく出来ました。焼き芋もとても美味しかったです。(70代～)

◇「ニンニク収穫体験」

- ・ 初めてなので良い経験になりました。(70代～)
- ・ 良い体験できました。(70代～)

〈ポイント〉

- ・ 年間の農業体験を通して、夏までの種まき、植付け体験に比べ、秋以降の収穫体験や加工体験への応募がやはり多い。大豆の種を25cm間隔で幼児と一緒に会話を交えながみながら歩を進める父親の姿が「食」に対する意識の変容/生命体として五感を通して生きている実感の姿に映る。種まき、植付け体験に対する「すべて種から始まる意識の変容」への誘い方が課題。
- ・ 真夏の暑い中にもかかわらず、「暑い中でしたが楽しくて苦にもなりませんでした(70代)」の声は農耕民族のDNAの覚醒そのものです。
- ・ 「さつまいもの焼き方をくわしく教えてもらっておもしろかったです。土の中からおいもが出てきて虫も一杯いておもしろかったし、やきいもがおいしいです。(小学生)」は「生命体として五感を通して生きている実感」を満喫しています。

- ・「初めての体験」との声が多い。土と直接触れ合い、その中から、人それぞれに自分の中にある五感を覚醒させ、生きている実感を感得している。そのことが楽しかった、おもしろかった、よい体験だった、との声になり、新たな興味関心を呼び起こしている。「生きる力」の糧になっている。
- ・「無農薬と聞いてとても安心しました。(30代～)」、「土作りも堆肥づくりも体験してほしいと思います。(70代～)」の声もいただいた。現在、当法人でも化学肥料ではなく、放し飼いの鶏から「鶏糞」を調達し、数年放置したオガクズを再利用し、病虫害には農薬を使わず、木酢をフル稼働させて病虫害を克服している。今後、参加者と「土づくり、肥料づくり」について共に学び合っていきたい。

◆小中学生による「大豆の種まき体験」2025年6月4日(木)9時から11時

- ・中野市立豊田小学校2年生(16名)・豊田中学校2年生(16名)合同体験
- ・4年前から小中合同で実施。種播きだけではなく、一から体験してほしいとの想いで耕起した土地をトンボで整地、畝播きのため紐を張り、撒く間隔に穴をあけ、小中合同のグループで2粒ずつ播き、撒き終えた後、藁を敷き、鳥等の被害を避ける風車も合同で作成、畝に差し込んで終了。

〈小中学生の声〉

- ・やさしく教えてくれたからうまく出来た。今から、おみそにして食べるのが楽しみ(小)
- ・土を掘ったり豆をまいたり楽しかった。大豆で味噌を作って、豚汁を食べたいな。(小)
- ・小学生と一緒に作業するのは新鮮で楽しい。(中)
- ・豆で肉料理などにかけるソースを作ってみたい。小学生との作業は楽しかった。(中)

〈ポイント〉

- ・学校内での合同学習ではなく、農地の土の上での異学年(小中)合同学習の機会は貴重な体験である。土そのもの、種そのものが副教材となり、教科者には書かれていない自然の決まりを小中学生が話し合い、学習を深める場面を多く見ることとなった。短時間ではあったが、本来備わった五感を引き出す貴重な時間になったことにちがいない。
- ・9月の小学生による「枝豆収穫体験」は実施できたが種を蒔いた農地は8月からの高温によるカメムシ多発被害により、実がつかず、予備用の第4農場で栽培した大豆を使って実施できた。次年度以降、病虫害予防は農薬が必要になるが当法人の無農薬栽培ができなくなり、今後大きな課題となった。

(様式第3号)

5. 今後の活動の展望（今後どのように活動を広げていきたいかなど）

- ・年間11回の「農業体験」の継続を原点に、参加者の形態、連携に工夫をこらしていきたい。
 - ①周辺の休耕地の増加に対応した農地の拡大。その為には一緒に農業に携わる人の拡大。
 - ②休耕地の拡大と安全な食文化、作物づくりを通して人が集まれる場の設定（幼少児から高齢者、諸外国の人びとなど）…安全な食の地産地消のふるさと創り（行政、JA、企業体の連携）。
 - ③今活動している農地（中野市）に2025年開校したInternational School of Nagano (ISN) のNakano Campus（農地の近く）では「探求の時間」があり、野菜作りなど農業体験を取り入れている。「自然、文化、地域の資源が豊富な地方都市こそ、探求と子育ての環境として理想的」と謳うISNとの連携。

6. 寄付者の皆様へのメッセージやご報告

いにしへの農耕民族は土の上で生活を始め、土を耕し、生きる糧としてきました。その営みの中から文化（土を耕すことから生まれたことばカルチャー）を育み、現代の私たちがいます。昭和の初めまで、多くの子どもたちは何らかの形で農耕と関り、自然の中で無農薬の食べ物を食し、たくさんの自然の生き物と当り前の様に日々接し、自らに備わった五感をフル稼働させ、生きる喜びを体感してきました。しかし、今、その最大の恩恵を受けてきた自然を改変し、自然のままに保てない環境へと急変しています。その危機意識を感じ取っていただき、私たちの活動を応援していただいた寄付者の皆様に深い敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

7. 添付書類

項目	チェック欄
収支報告書（様式第3-1号）	<input checked="" type="checkbox"/>
収支報告書の証拠書類（領収書の写し等）	<input checked="" type="checkbox"/>
活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）	
本助成金で実施した事業のことが掲載された団体の広報物や新聞等 （該当するものがあればぜひお送りください）	<input checked="" type="checkbox"/>

※実績報告書および添付書類は、電子データにて公益財団法人長野県みらい基金 松本事務所までメールでご提出ください。電子データでの提出が難しい場合は、郵送または持参でご提出ください。

【提出先】

公益財団法人 長野県みらい基金 松本事務所
〒390-0852 長野県松本市島立 1020 松本合同庁舎 2階
TEL : 0263-50-5535 FAX : 0263-50-6561
E-Mail : matsumoto@mirai-kikin.or.jp

NPO法人信州ふるさと郷育ネットワーク

ふるさとラビット 通信



五感を通した循環型の社会をめざして

長野事務所:長野市徳間1168-27

中野事務所:中野市金井535-2

Fax 026-295-5103 090-4442-2824

E-mail: sydsato@yahoo.co.jp

H P : <https://furusatorabbit.sakura.ne.jp/sub/>

NO. 16 (2026. 1. 10)

◇そば打ち体験(2024.12.1)



◇味噌づくり体験(豊田農産物加工施設2025.2.16)



◇じゃがいも植付け体験(2025.4.13)

◇大豆の播種体験・さつまいも植付け体験(2025.6.1)



◇大豆の播種体験・豊田小2年/豊田中1年合同(2025.6.4)

◇ニンニク収穫体験(2025.6.8)



◇じゃがいも収穫体験(2025.7.13)



◇そばの播種体験(2025.8.3)



◇枝豆収穫体験・豊田小2年生(2025.9.22)



◇サツマイモ収穫体験(2025.10.12)



◇ニンニク植付け作業(2025.11.2)



◇大豆収穫体験・豊田小2年生(2025.11月) ※大豆の病虫害により体験中止

中野の小中学生 大豆種まき

ペアを組んで仲良く

仲良く大豆の種をまく小中学生



中野市の豊田小学校2年生16人と豊田中学校1年生16人が4日、同市栗林の畑で大豆の種まきをした。小中学も作った。今後、収穫した大

豆でみそ造りも体験する予定だ。

中野の良さを発信するNPO法人「信州ふるさと郷育ネットワーク」が地域の自然と触れ合ってほしいと企画。小中学生でペアを組んで畑に穴を掘り、数粒の種を落として土をかふせた。中学生の様子を見た小学生が「私もやってみたい」とまねをするなど仲良く作業した。

中学1年の津田暖斗さん(12)は「小学生と一緒に作業するのは新鮮で楽しい」と話した。津田さんとペアを組んだ小学2年の成合凜桜さん(8)は「優しく教えてくれるからうまくできた。今から、おみそにして食べるのが楽しみ」と笑顔を見せた。

味噌やソースに

豊田小中生が大豆まき体験

ヒモに沿って等間隔に大豆をまいていく小中学生



豊田小学校2年生16人と豊田中学校1年生16人が4日、NPO法人「信州ふるさと郷育ネットワーク」（佐藤栄美代表理事）が管理する浜津ヶ池農園で大豆の種まきを体験した。

大豆の栽培は、同法人の小林日田夫さん（豊津）がコミニティスクールの委員を務める縁で旧豊井小時代から続いており、統合で豊田小と豊田中が同じ敷地内となった4年前から小中学生と一緒に体験している。

子どもたちは農園の一角で、20センチあるうね4列をトンボで平らにならし、ヒモを引いた直線上に等間隔で穴を開けながら青大豆「あやみどり」をまいていった。小中

学生がベアになって作業を体験し、土をかけた後は乾燥予防と鳥につつかれないようワラをかぶせて、たくさん収穫できるように願いを込めた。

豊田小2年の北澤橙菜君は「土を掘ったり豆をまいたり楽しかった。大豆で味噌を作って、豚汁を食べたいな」。小学校時代に大豆を育ててきな粉にしたという豊田中1年の坂本鳳騎君は「豆で肉料理などにかけるソースを作ってみたい。小学生との作業は楽しかった」と話していた。

畑には鳥やモグラ、ネズミよけにとペットボトルの風車も作って設置。9月には枝豆をゆでて食べたり、11月には大豆の収穫を予定している。

「信州ハムSDGs基金2024秋助成」助成金実績報告書

2026年1月30日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	長野県北佐久郡御代田町御代田2670-67
団体名	特定非営利活動法人まちの縁側なから
代表者職氏名	齋藤 百合子

「信州ハムSDGs基金2024秋助成」助成金について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請事業名

畑でご飯

2. 活動の概要

① 具体的な対象者のイメージや人数

※助成申請書の内容を転記してください。

対象者：なから利用の子ども達・保護者

おもがえっコ利用の子ども達・保護者

その他どちらにも繋がっていない不登校或不登校気味の子ども達・保護者

その他どなたでも。

参加予定人数：蜂蜜搾り体験50人

畑でピザと野点20人×2回

畑で卵かけごはん20人

② この活動で目指すこと

※助成申請書の内容を転記してください。

なからにはこれまででも、不登校やフリースクールに通う子ども達、或は学校を休みがちな子どもが複数利用してきました。

その子達も子ども食堂や畑での催しを体験する中で次第に明るく活動的になり、高校に進学しその後も元気に過ごしている様子を知らせてくれます。

林に囲まれて広々とした畑で伸び伸びとしながら、皆で協力して楽しく調理する時間は子ども達からエネルギーを引き出してくれるように思います。

自然にこだわった養蜂家から蜂やハチミツのことを学びながら過ごす時間は皆さん目を輝かせています。

また茶道等日本の伝統文化は心の持ちようや立ち居振る舞いを美しく保つ力を与えてくれると思います。

催しを通じて一人ひとりが役割を持つことで役立つ喜び、繋がりも感じられるのではないのでしょうか。

また、大勢集まると大抵お節介焼きがいるものですが、お節介焼きは子どもでも大人でも孤立を防ぐ重大な役割を担っていると感じています。

多様な人の集まりは互いに影響しあって、一人ひとりが逞しくなると考えていますが、解放

された空間で自然の力も加わって更に強く作用するように感じます。

3. 活動内容（日時・場所・活動内容・参加人数など）

場所は全てなから「みんなの畑」

日時：6月1日10時～13時

活動内容：「畑でピザと野点」 手作りのピザ生地にハムやソーセージを贅沢に使ったトッピングを楽しみ、それを味わう喜びを参加者皆で分かち合う。

広い空の下で美味しいお茶を頂きながら、その立ち居振る舞いの美しさを目にすること、日本の伝統文化や歴史を垣間見ること。

参加人数：16人

日時：9月28日10時～13時

活動内容：「畑でピザと野点」 同上

参加人数：21人

日時：6月8日8時～12時

活動内容：「蜂蜜絞り体験」 ハチや蜂蜜について学ぶ。

今年は思うように蜜が集まらず、開催は1回のみ。広報も控えめに行った。

参加人数：42人

日時：11月9日：10時～12時

活動内容：「畑で卵かけご飯」 毎月頂いている自然卵と畑で取れた野菜を楽しむ。

毎月卵を下さっていた方が9月初めにお亡くなりになり、予定を変更して開催。

参加人数：7人（雨天のため3家族12人不参加）

日時：2月2日・3月9日・5月11日・7月20日・10月26日・11月30日・12月21日 9時～12時半

活動内容：「皆で畑作・畑でご飯」 11時半まで畑作業をし、その後畑での昼食を楽しむ（冬季はなからで豆の選別）。

参加人数：平均5人（2人から10人 昼食は毎年苗や野菜を下さる隣接の畑の方1人～4人も加わる）

4. 事業の成果（事業によって対象者がどのように変化したか。また、事業を通じて達成できたことや達成できなかったことなど）

基本的に毎日曜日開催の「皆で畑作・畑でご飯」に参加していた不登校のこどもとその家族が、畑での他の催しにも参加してくれるようになり、楽しんでいる様子を見せてくれた。

「蜂蜜絞り体験」は毎年好評であるが、「はち屋」の講習の素晴らしさや蜂蜜の美味しさに「来年も絶対参加します。」の声も今年も聞いた。

「畑でピザと野点」は「ハムやソーセージのいっぱい載ったピザが食べたいと言っていた子ども達は、雨天のため延期になった運動会等、学校行事と重なり参加出来なかった。その代わり同じようなピザを平日のこども食堂で食べさせてやることが出来た。

また、茶道を習っている小学生男児の活躍の場として利用することが出来、本人にも参加者にも新鮮な喜びをもたらした。

「畑で卵かけご飯」は毎月自然卵を提供して下さった方が7月より体調を崩し、9月にお亡くなりになったので予定を変えての開催となった。

アトリエDEFが炊でご飯を炊く炉と羽釜を提供して下さい、感激のひと時を過ごすことが出来た。参加の父子はご飯炊きをとても楽しんでくれた様子。また、有難いことに催しの最中は雨が止んでくれた。

羽釜を購入の予定であったがかって使っていた下さる方があり、購入の必要がなくなった。その代わり一昨年購入の電動仮払い機のバッテリーを購入させていただいた。

(様式第3号)

5. 今後の活動の展望（今後どのように活動を広げていきたいかなど）

林に囲まれた広い畑での催しは心地よさを感じるとともに、何らかつらさを抱えている人にはエネルギーが注ぎ込まれ、元気になっていくように感じられる。

楽しい催しはこのまま続け、毎週日曜日の「皆で畑作・畑でご飯」を平日にも開催し、不登校の子ども達の居場所を増やそうと準備中である。

また、蜂を観察しやすいように。「はち屋」の蜂置き場となからの畑に蜜源になる植物を増やす予定である。

6. 寄付者の皆様へのメッセージやご報告

寄付者の皆様にはとても感謝しております。

ハムやソーセージのたっぷり載ったピザを食べたいと言っていた子ども達は、雨天のため延期された運動会等、学校の行事と重なり、当日は参加出来ませんでした。平日の子ども食堂で同じ様なピザを食べさせてやる事が出来ました。

平常はつつましやかな生活をしている高齢者も、贅沢なピザを食べること、子ども達と一緒に作業することをとても喜んでいました。「これで寿命が伸びたわ。」とおっしゃる方もあり、自然の豊かな畑を使った催しに助成いただけたことに感謝でいっぱいです。

今後もこの様な楽しい催しは続けて行くつもりです。寄付者の皆様にもご参加頂くと更に嬉しいです。

本当にありがとうございました。

7. 添付書類

項目	チェック欄
収支報告書（様式第3-1号）	<input checked="" type="checkbox"/>
収支報告書の証拠書類（領収書の写し等）	<input checked="" type="checkbox"/>
活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）	<input checked="" type="checkbox"/>
本助成金で実施した事業のことが掲載された団体の広報物や新聞等 （該当するものがあればぜひお送りください）	<input checked="" type="checkbox"/>

※実績報告書および添付書類は、電子データにて公益財団法人長野県みらい基金 松本事務所までメールでご提出ください。電子データでの提出が難しい場合は、郵送または持参でご提出ください。

【提出先】

公益財団法人 長野県みらい基金 松本事務所
〒390-0852 長野県松本市島立1020 松本合同庁舎2階
TEL : 0263-50-5535 FAX : 0263-50-6561
E-Mail : matsumoto@mirai-kikin.or.jp

NPO 法人まちの縁側なから」お知らせ

9月・10月の予定

2025年9月19日

☆ぬいっここと☆ お喋りしながら縫物 時々布草履作り。

【日 時】 9月20日(土) 9:30~11:30 次回10月4日・18日

【参加費】 200円(ミシン等使用料+お茶代)

☆子ども食堂みよた 高齢者歓迎です。

調理もいっしょに楽しみましょう。 高校生ボランティアさんも参加。

【日 時】 毎週水・金曜日 17:00~19:30

【参加費】 大人300円・子ども100円

☆手話教室 手話ダンスも楽しみましょう。

【日 時】 10月21日(火) 10:00~11:30 次回 11月18日

【参加費】 100円

☆Sign Friend(サインフレンド) 手話でお喋りしませんか。

これから習いたいかたも歓迎。

【日 時】 9月20日(土) 15:00~16:30 次回10月4日・18日

【参加費】 100円

☆EM・ボカシ・石鹼作り

【日 時】 9月未定日(土) 10:00~12:00

石鹼作りをします。余裕があればプリン石鹼作りも。

☆みんなで畑作

【日 時】 毎週日曜日 9:00~12:00

【持ち物】 皿・箸・水分・タオル・軍手帽子・有れば長靴

【会 場】 栄町のみんなの畑(場所はお問い合わせください。)

☆畑でピザと野点

【日 時】 9月28日 10:00~13:00

【参加費】 500円

【持ち物】 水分 畑に適した服装でお越しください。

【会 場】 みんなの畑

☆蜂蜜絞り体験

【日 時】 未定 (日) 8:00~11:00

限定30人 6人ずつ5組 1組30分~40分

【参加費】 300円 幼児無料 大人と子どもの人数をお知らせください。

当日、100gの瓶 1000円で販売致します。

【会 場】 みんなの畑

☆地域でいきいき暮らす 世代を超えて共に暮らす集合住宅を夢見て

【日 時】 休止中

☆助産師さんとお話しましょう

【日 時】 10月 10日 (金) 13:00~15:00 次回 11月 14日

【参加費】 200円

☆地域の伝統食を楽しむ会 きのこ料理

【日 時】 10月 26日 (日) 13:00~16:00 次回 11月未定日そば打ち

【参加費】 700円 エプロン・バンダナ・タオルをご持参ください

☆ちょっくら定例会 障がいのある子ども達と一緒に(連携)

【日 時】 9月 26日 19:30~20:30 次回 10月 31日

【参加費】 100円

6時半からこども食堂が利用出来ます。大人300円 子ども100円

※会場不記載の場合は「なから」が会場です。※

お申込みお問い合わせは、NPO 法人まちの縁側なから
080-6173-5421 (齋藤携帯) 0267-34-0881 (固定電話)
尚、お申し込みしは各催しの2日前までをお願いします。











